

団体名：



静岡県立富士山高等学校

### 【団体概要】

住所：静岡県伊豆の国市富士山 229

連絡先：055-949-1009

### 富士山高校の沿革

明治6年(1873)江川坦庵公(江川太郎左衛門英龍)の高弟、足柄県令柏木忠俊により、小学校教員養成を主たる目的として、足柄県富士山支庁(現伊豆の国市江川邸内)に仮研究所が開設され、近隣の本立寺において授業法を伝授しました。これが富士山高校の始まりです。令和5年(2023)に、創立150周年を迎えます。



### 【私たちの取り組み】

本校の理数科と普通科文系探究コースの取り組みを紹介します。

14 海の豊かさを  
守ろう



#### マイクロプラスチックによる海洋汚染

理数科課題研究 地学1班

マイクロプラスチックは5mm以下の微小なプラスチック粒子のことです。私たちが普段使っている歯磨き粉や洗顔料に汚れを除去する目的で使用されていたり、大きなプラスチックが微細に砕けたものを言います。海洋生物がマイクロプラスチック自体と、それに付着した有害物質を摂取することで、生物濃縮によって海鳥や人間の健康にも影響を及ぼす可能性があります。そこで、高校生でもできるマイクロプラスチックの検出方法を確立し、伊豆半島の周辺の海、川にどの程度マイクロプラスチックがあるかどうかを調べました。その結果、高校にある設備で伊豆半島海域及び狩野川に存在するマイクロプラスチックを検出できることが分かりました。また、各地点500Lずつ海水や河川の水をとったが、マイクロプラスチックは、河川の方が多く、人間生活と深く結びついていることがわかり、マイクロプラスチックは河川からの流入によるものも多いとわかりました。



11 住み続けられる  
まちづくりを



#### 伊豆市活性化

普通科文系探究コース 公民1班

伊豆市の人口は現在、高齢化率(人口に占める65歳以上の割合)は39.62%と著しい人口減少とともに少子高齢化が進んでいる(平成31年4月1日現在)。伊豆市のこのような現状を解決し、地域のにぎわい力を高めるためにはどうしたら良いかを高校生の目線で考えるべくこの研究に至った。また、今回この研究はAIが選ぶ魅力的な市町県内一位の長泉町(中部圏社会経済研究所調べ)と比較して調査・研究を行った。

今回の調査は伊豆市と長泉町を比較して行ったが、市町の制度や財政状況に大きな差があるわけではない。街のにぎわいの差は、住む人の主体性から生まれる。そのため、地元愛を持つことで一度は外に出てもまた戻ってきたいと思えるようになると考えた。また、調査した情報とアンケートの結果などから以下に示す二点が「地域の働く力」と「地域のにぎわい力」の向上につながるかと考え、①生産年齢人口の減少により衰退した観光業の働き手を増やす ②地域コミュニティ機能の充実を伊豆市に提案した。